国文学に対する偏見と軽視を克服し日本留学へ

チュオク・ソピア

2016 年 2 月 13 日　クロマーポスト紙掲載インタビュー

大学進学にあたり、チュオク・ソピア氏は、王立プノンペン大学国文科に進学することを決めました。「12 年間も国語をやってまだ勉強するのか。何の役にも立たないよ」と言われ、逆に国文学への熱意が増しました。家族の応援もあり、２年次に、成績優秀者を対象に英語の試験で選抜する日本留学に応募しました。誰もが留学したいと望む国に行けるなんて夢のようだったといいます。

ソピア氏は、東京外国語大学で各国からの留学生と学んでいます。外国で学ぶ学生はいろいろな問題に直面するものです。ソピア氏は、渡航前に日本語を全く学んでおらず、日本は英語があまり通じない国なので苦労しました。しかしソピア氏は、苦労はないと言い切ります。というのも、日本側は、カンボジアの学生が勉学に励めるように、すべてを用意してくれていました。家族の一員のように迎えられ、大学にはカンボジア語専攻があり、カンボジア語専攻の先生は親身に面倒をみてくれるので孤独を感じることはありません。いつも助けてくれるチューターにも、留学生課をはじめとする事務局の支援にも恵まれています。

11 月には、アセアン加盟国中学生招聘交流事業の学生リーダーを務め、日本について次の３点を発表しました。１．日本人は定規です。誰が何をするのであってもいつも行列をします。２．日本人は時計です。何時と約束したら、遅刻は許されません。３．日本人は信号である。法律を守り、歩行者は自転車や車よりも優先されます。治安もよいです。

交換留学では、日本語は週に５日、英語は各自の関心に応じて学びます。必修科目が大部分のカンボジアとはシステムが異なり、関心のある授業を履修し単位数を満たせばよいのです。ソピア氏は、秋学期に、神話、言語学、インド映画の３科目を履修しました。「日本語の勉強は難しいです。文法もカンボジア語と全く違い、パーリ語やサンスクリット語に似ています。難しくて頭の回転がついていきません」と言います。

残念ながら、日本人の中にはカンボジアを知らない人もいます。武蔵野市国際交流協会で、各国の留学生が自分の文化を紹介する際に、ソピア氏は、初のカンボジア人出演者として、弦楽器の演奏と民族舞踊を披露し、好評でした。また、外語祭でも、日本人学生によるカンボジア語劇『トム・ティアウ』に、役人と吟唱者の二役で出演し、カンボジアの文化を披露できたので、国を代表して貢献できました。

ソピア氏は、「日本学生支援機構には、カンボジアの学生が、日本の文化、生活、法律、言語、英語を学べるように奨学金を継続していただきたいです。また、学生の側も、自らの文化と芸術を理解してから留学すべきだ」と言います。

将来については、自国の発展のためにカンボジア文学を学んだ知識を活用したい、とソピア氏は希望しています。